



# ステップファミリー (子連れ再婚家庭)と その課題

## ステップファミリーとは？

「ステップファミリー」は、日本ではまだまだ馴染みのないワードです。日本語では子連れ再婚家庭と言われて、夫婦のどちらか一方、または両方に以前の結婚で設けた子どもがいる場合の家族を言います。

ステップファミリーとひとことで言っても、様々な形があります。どちらか一方に連れ子がいる場合もあれば、両方にいる場合もあります。過去の配偶者との別れが、離婚なのか死別なのか、子どもの年齢や性別の違いもあります。

また、一緒に暮らしていなくても面会交流があり、定期的な親子交流がある場合にも、ステップファミリーと呼ばれます。ステップファミリーの「ステップ」とは英語の接頭辞で「継」という意味です。つまり継親子関係のある家族をステップファ

ミリーと呼びます。バラバラになった家族が、新しい家族とつなぎあわされて1つになることから、アメリカでは「パッチワークファミリー」と呼ばれることもあります。

## 日本のステップファミリーの現状

現在、日本のひとり親家庭数は120万世帯を超えています（全国母子世帯等調査）。ひとり親家庭の増加に伴って、ステップファミリーが増えています。現在は結婚の4組に1組が再婚（人口動態調査）という時代で、再婚は10年前と比べると4倍に増加しています。

それなのに、ステップファミリーの認知度は低く、予備軍であるひとり親家庭の当事者ですら、ステップファミリーが抱える様々な問題を認識していないのが現状です。

私はよくひとり親家庭向け講座の講師をしますが、会場に集まる人達に「ステップ



新川 てるえ

作家・家族問題カウンセラー・  
NPO法人 M-STEP 理事

【しんかわ・てるえ】

1964年東京都葛飾区生まれ。千葉県柏市育ち。10代でアイドルグループのメンバーとして芸能界にデビュー。97年12月にインターネット上でシングルマザーのための情報サイト「母子家庭共和国」を主宰。3度の結婚、離婚、再婚等の経験を生かしシングルマザーコメンテーター・家族問題カウンセラーとして雑誌、テレビなどに多数出演。2014年ステップファミリーを支援するNPO法人M-STEPを設立。

ファミリーを知っていますか？」と聞くと、聞いたことはあるけれど、詳しくは知らないという方が大半です。

私自身もシングルマザーで、2002年よりNPO法人ウインクを立ち上げてひとり親家庭支援をしてきました。ある時、「ステップファミリーへ幸せな再婚家庭になるために」というアメリカの本が訳者から寄せられました。

私はこの時初めて「ステップファミリー」を知りましたが、なぜこの本が私に送られてきたのか、当時は全く理解できませんでした。当時の私は、再婚に興味がなかったので、書籍の必要性を全く感じていなかったからです。

その後、私は2度、再婚をしました。1度目の再婚は私に連れ子がいるだけだったので、さほどストレスを感じることもありませんでしたが、たまに夫が我が子にストレスを感じているのを見ていて、なぜだろ



うかと思うことはありません。

2度目は2歳と13歳の女の子を持つシングルファザーとの再婚でした。我が子は長女が18歳、長男が12歳とすでに大きくなっていましたので、2歳の子どもの再びの子育ては思っていた以上に大変で、急に増えた家事と育児の負担に戸惑いました。

また、13歳の継子は夫の実子ではなく、夫の元妻の連れ子で夫の継子でした。思春期を迎えて難しい年齢なのに、そんな複雑な家庭環境に子どもが荒れないわけはありません。

度重なる子どもの反抗に苦勞させられ、継子を心から愛せない悩みに直面しました。私は苦しい再婚生活を経験し、8年後

にはまた離婚しました。

そんな、自らの経験から支援の必要性を感じ、多くの当事者及び支援者にステップファミリーを知ってもらいたいと、3年前にNPO法人M・STEPを立ち上げました。

日本には現在、ステップファミリーを支援する団体は数えられるくらいしかありません。こんなに再婚家庭が増えているのに、国の実態調査すらなく、抱えている問題も認識されていないので、支援する制度はもちろん、専門の相談窓口もありません。

### ステップファミリーの抱える問題点

子どもを育てるといっているのは普通の家族でも大変なことです。それがステップファミリーになると苦勞は倍以上になります。親子関係にストレスを感じ、育児書では解決できない問題にたびたび躓くこととなります。

先にも触れましたが、日本ではステップファミリーの認知度が低いので、初婚でつくれる家族となら変わらないと見られて対応されることが多いのです。誰にも理解されないことが、ストレスの1つにもなっています。

「再婚したんだから幸せでしょ?」と言われ、愚痴を言えば「覚悟して再婚したんですよ?」と言われてしまいます。

一見、普通の家族と変わらないように見

えるので、理解してもらえないならばと、カミングアウトすることを躊躇する人が多くいます。だから問題は隠れています。

また、躓いたり、問題を抱えてしまうのは大人だけではありません。継親子関係はもろろんのこと、血のつながりのない兄弟、姉妹、義理の祖父母との関係に悩む子ども達も沢山います。

### ステップファミリーならではの問題点

#### ■様々な形と抱える悩みがある

ステップファミリーの成り立ちは様々で、離婚、死別からの再婚、未婚のシングルマザーが結婚する場合にも連れ子がいるので、ステップファミリーになります。未婚の男女が子どもがいる男女と結婚する場合もあります。だから、悩みはご家庭ごとに様々です。

「夫は死別なので、元嫁の仏壇が家にあります。夫のお墓には元嫁が…。私が死んだらそのお墓に一緒に入らなくてはならないことを考えると本当に嫌です」

「夫の子ども達は今でも別れた母親に会っています。浮気をして子育てを放棄したくせに、いいとこどりで頭にきます。育てているのは私なのに」

「初婚で継母になりました。子育ても初めてなのに、夫は私に子どもと家のことは任せっきりです」



このように成り立ちの違いで、様々な悩みや問題があるのがステップファミリーです。

### ■喪失感を持って始まる家族である

ステップファミリーは喪失感を持って始まる家族です。過去の離別や死別を経験しているのです。今度こそはうまくやれるはずだと思いきや、スタートしますが、しばらくすると落ち込んで泣きたくなったりすることが

たびたび訪れます。本当にこれで良かったんだろうかと思うことがあります。

「彼のお母さんが病死した直後に再婚しました。おばあちゃん子だった小学生の娘が、私とはほとんど口をきいてくれません。無視されて生活するのが辛いですが、夫も我が子を不憫に思っていて、注意することもできません」

また、結婚により住む場所が変わったり、仕事を辞めたり、子どもは学校や友達が変わったり、失うものが増え、それが沢山の喪失感となります。だからみんなが穏やかに暮らせるようになるまでに時間がかかりかかります。

### ■元の家族との関係がある

ステップファミリーにはもれなくついでくる元の家族とのしがらみがあります。「うちは再婚前から離婚時の取り決めで子どもと実の父親の定期的な面会交流があるのですが、夫はそれを快く思っていない。いつも不機嫌になるので、私も子ども気を遣って疲れてしまっています」「夫の子ども達は離婚した母親にたまに会いに行きますが、私のことを聞かれたり、私の悪口を吹き込まれていたりしているようで、本当にムカついています」

### ■大家族になることの負担

お互いに子どもがいて再婚する場合には大家族になる可能性があります。女性が特

に、増える家事や育児の負担に戸惑うことになりやす。

経済的に楽になるのではと思われがちですが、逆になる場合が多く、気づかずに再婚して、こんなはずじゃなかったと思うことになりやす。

ひとり親家庭として支給されていた児童扶養手当がなくなります。ご家庭によっては養育費がなくなることもあります。

また、再婚によって仕事を転職したり退職したりして家計の収入が減るのに、再婚による引越や何かと物入りで出費がかさみます。

夫婦2人で力を合わせていけば生活は楽になると思ってしまうものの、現実問題に直面して甘かったと実感するのです。

### ■2つの家族の生活習慣の違い

初婚で男女が結婚する場合にも生活習慣の違いは何かしらあります。家の中でスリッパを履くか、履かないか。朝食はパンかごはんか。お風呂のバスタオルをすぐに洗濯するか、何度か使いまわすか。今まで別の環境で生活してきたので違いがあつて当たり前です。

でもそれが家族間の違いになるとなかなか歩み寄りができなくて、こと子どもの躰に関しては厳しく考えてしまいがちです。

「父子家庭と再婚しました。私の子どもは朝ご飯をしっかりと食べますが、継子は小さな頃から朝ご飯を食べない生活をしてき

たので食べられません。子どもが朝ご飯を食べないのは、躰上も健康上も良くないと思っただけですが、せつかく作った朝ご飯を残されることが多く、本当にストレスです」

### ■子ども達もストレスを抱えている

継親が継子に嫌悪感を持つたり愛せないと思ってしまう、子ども達も多くのストレスを抱えています。例えば実親に叱られるのは嫌ではないけれど、継親に叱られることにストレスを感じます。

「再婚は親が勝手に決めたことです。親の幸せは祝福したいけど、親でもない人に親ツラされたくないです」

### ■周りが理解してくれない

私の経験談をお話しします。  
夫の継子が保育園の時に熱を出すと、必ず私に電話がかかってきました。保護者である夫に連絡してくださいとお願ひしたら、「だってお母さんですよ」と言われました。私は継子とは養子縁組をしていないので親権者（保護者）ではないので、何かあったら責任を持ってないことを懸命に説明して理解してもらいました。

しかし、普通の継母さんならきつとくじけて、諦めてしまうのだらうと思いました。こんな声が沢山あります。

「子連れ再婚なので大変なんですと云って周りから何が大変なのか理解されないの、いちいち説明するのが面倒で、カミン

グアウトするのをやめました」

### ■専門の相談窓口がない

ここで挙げた当事者の声は、私が取材で実際に聞いた生の声です。一例を挙げただけでも、様々な問題があるステップファミリーですが、専門の相談窓口がありません。

私のもとにカウンセリングに訪れた継母さんが「継子を愛せません」と言うので、私が「愛せなくて当たり前です。他人の子どもですから」と答えたら、急に泣き出しました。

これまで訪れたいくつかの相談先では「愛情を持って抱きしめてあげましょう」「お母さんになったんだから頑張らない」と言われ、自分は母性本能が欠落している、自分を責めて苦しんできたと言いました。

このように、一般の子育て相談窓口ではステップファミリーはまだ理解されていないため、悩んでいる当事者を上手にサポートすることができません。



私がシングルマザーになったばかりの頃（27年前）はシングルマザーが母子家庭と呼ばれていた時代でした。片親とか欠損家庭などと呼ばれることも多く、差別家庭で

した。

毎年増える離婚件数に、ひとり親家庭が増え、テレビドラマでシングルマザーがヒロインとして活躍するようになって、シングルマザーであることはネガティブではなくなりました。「私、シングルマザーです」と今や堂々と言える時代です。

ところが今、ステップファミリーは27年前の母子家庭の時代にいます。ステップファミリーだということを言うと偏見の目で見られるので、口にしなくて隠して生きている人が多いからです。とにかく遅れています。

アメリカの子どものいるカップルのうち、40%がステップカップルで、結婚するカップルの3分の1がステップファミリーを形成する、と言われていています。当然ながら沢山のサポートグループがあり、専門のカウンセラーもいます。

近年、シングルマザーの恋愛相手による虐待事件、再婚家庭の継親による虐待事件などが増えています。これは虐待をしまっただけの問題だとは思えません。

まずこの問題をしっかりと理解するためには、国の実態調査が早急に必要だと思っています。

当事者が堂々とカミングアウトして、孤独にストレスを抱えることのないように、専門の相談窓口の設置や当事者同士の交流会など、必要とされる支援は本当に沢山あります。